

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】令和 1 年 8 月 29 日 (2019.8.29)

【公開番号】特開 2019-105652 (P2019-105652A)
 【公開日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-025
 【出願番号】特願 2019-53221 (P2019-53221)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/53 Q
 G 0 1 N 33/53 N

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 7 月 19 日 (2019.7.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

過敏性腸症候群（I B S）と診断される患者または過敏性腸症候群（I B S）が疑われる患者において食物不耐性を試験するための検査キットパネルであって、

個別にアドレス指定可能な固相担体に固定された異なる複数の I B S 誘因食物調製物、から実質的になり、

ここで、前記異なる複数の I B S 誘因食物調製物 が 0.07 以下の未処理 p 値を有する、または、0.10 以下の偽発見率（F D R）多重度調整 p 値を有する、検査キットパネル。

【請求項 2】

前記異なる複数の I B S 誘因食物調製物 が、ココア、茶、オート麦、キャベツ、牛乳、タマネギ、ハチミツ、ライ麦、トウモロコシ、酵母、小麦、大豆、卵、マグロ、レモン、パイナップル、キュウリ、オレンジ、オヒョウ、クルミ、グレープフルーツ、甘蔗糖、鶏肉、ブルーベリーおよびエビからなる群から選択される少なくとも 2 種の異なる I B S 誘因食物調製物 を含む請求項 1 に記載の検査キットパネル。

【請求項 3】

前記異なる複数の I B S 誘因食物調製物 が、0.05 以下の未処理 p 値を有する、または、0.08 以下の F D R 多重度調整 p 値を有する、請求項 1 に記載の検査キットパネル。

【請求項 4】

前記異なる複数の I B S 誘因食物調製物 が、粗製の水性抽出物、または、処理された水性抽出物である請求項 1 に記載の検査キットパネル。

【請求項 5】

過敏性腸症候群と診断される患者または過敏性腸症候群が疑われる患者において食物不耐性を試験する方法であって、

固相担体に連結した複数の I B S 誘因食物調製物 を、過敏性腸症候群と診断される患者または過敏性腸症候群が疑われる患者の体液と接触させる工程であって、ここで、前記 I B S 誘因食物調製物 が 0.07 以下の未処理 p 値を有する、または、0.10 以下の偽発見率（F D R）多重度調整 p 値を有する食物調製物であり、

前記接触させる工程が、前記体液からの I g G が前記 I B S 誘因食物調製物の少なくとも 1 つの成分に結合することを可能にする条件のもとで行われる、工程、

前記食物調製物の前記少なくとも 1 つの成分に結合した I g G を測定して、シグナルを得る工程、および、

前記シグナルを使用して報告書を更新する、または、作成する工程、を含む方法。

【請求項 6】

前記異なる複数の食物調製物が、ココア、茶、オート麦、キャベツ、牛乳、タマネギ、ハチミツ、ライ麦、トウモロコシ、酵母、小麦、大豆、卵、マグロ、レモン、パイナップル、キュウリ、オレンジ、オヒョウ、クルミ、グレープフルーツ、甘蔗糖、鶏肉、ブルーベリーおよびエビからなる群から選択される食品品目から調製される請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

過敏性腸症候群 (I B S) と診断される患者または過敏性腸症候群 (I B S) が疑われる患者において食物不耐性についての検査を作成する方法であって、

異なる複数の食物調製物についての検査結果を得る工程であって、ここで、前記検査結果は、過敏性腸症候群と診断される患者または過敏性腸症候群が疑われる患者の体液と、過敏性腸症候群と診断されないコントロール群または過敏性腸症候群が疑われないコントロール群の体液とに基づいている、工程、

複数の I B S 誘因食物調製物を選択する工程であって、ここで、前記 I B S 誘因食物調製物が 0.07 以下の未処理 p 値を有する、または、0.10 以下の偽発見率 (FDR) 多重度調整 p 値を有する食物調製物である、そして、

選択された I B S 誘因食物調製物を含む検査を作成する工程、を含む方法。

【請求項 8】

前記異なる複数の食物調製物が、ココア、茶、オート麦、キャベツ、牛乳、タマネギ、ハチミツ、ライ麦、トウモロコシ、酵母、小麦、大豆、卵、マグロ、レモン、パイナップル、キュウリ、オレンジ、オヒョウ、クルミ、グレープフルーツ、甘蔗糖、鶏肉、ブルーベリーおよびエビからなる群から選択される少なくとも 2 種の食物調製物を含む請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記検査結果を、前記異なる I B S 誘因食物調製物のそれぞれについて性別によって階層化する工程、および、所定のパーセンタイル順位について、前記異なる食物調製物のそれぞれについての男性患者および女性患者のための異なるカットオフ値を割り当てる工程、をさらに含む請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】

前記所定のパーセンタイル順位が、少なくとも 90 パーセンタイル順位である請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

患者のサブセットを特定する工程をさらに含み、前記食物調製物に対する患者の感受性の前記サブセットが、未処理 p 値、または、0.01 以下の平均判別 p 値によって I B S の根底にある請求項 7 に記載の方法。